

議事録要旨

◆会議名 第2次大分市商工業振興計画推進委員会

◆日時 令和元年7月31日(水)午前9:30～11:30

◆場所 大分市役所8階大会議室

◆出席者

【委員】

渡邊 博子（委員長）、田北 裕之（副委員長）、穴井 壯志、友永 智男、小林 恭子、
伊藤 裕司、佐野 真紀子、中田 和宏

【事務局】

商工労働観光部 部長 永松 薫、審議監 佐々木 英治
商工労政課 課長 正池 功、参事 姫野 貴仁、参事補 甲斐 政治、参事補 後 竜太郎、
参事補 西田 賢介、主査 中川 宏、主査 三ノ宮 耕介

【オブザーバー】

創業経営支援課、観光課、おおいた魅力発信局、契約監理課、情報政策課、市民協働推進課、
環境対策課、農政課、生産振興課、まちなみ企画課、都市交通対策課、学校教育課

- ◆次第
1. 開会
 2. 商工労働観光部長あいさつ
 3. 委員自己紹介
 4. 事務局紹介
 5. 議事
 - (1) 委員長、副委員長の選任について
 - (2) 委員長あいさつ
 - (3) 第2次大分市商工業振興計画の達成状況等について
 6. その他
 7. 閉会

◆議事録要旨（質疑応答を抜粋）

| 1. 新たな産業の創出 | |
|-------------|--|
| 委員 | <p>達成度「B」にはなっていますが、資料2からは、創業支援の取組として支援体制の拡充という意味では着実に実行されていることが見て取れると思います。</p> <p>一方で創業における成功事例などの共有という点ではどのような取組をされているのか、また、目標値である200件には達していないとなると、さらなる創業者の掘り起しのための、もう一歩踏み込んだ取組を検討していれば教えてください。</p> |
| 事務局 | <p>体制の拡充等は、金融機関の皆様方を創業支援の事業者として参画していただくなど、拡充に努めているところです。</p> <p>その結果、中にはIT関係の創業者で、着実に業績を伸ばしているような成功事例もいくつかあります。そういった方の成功事例の発信については、たとえば大分市産業活性化プラザで、ほぼ毎週水曜日に開催しておりますセミナーの講師になっていただき、自社の事業内容や成功の秘訣をご紹介していただく取組を行っております。</p> <p>今後も引き続き成功事例の発信につきましては、セミナーの講師以外にも、ホームページ等の媒体を使い、皆様方に周知できるような体制を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>合わせまして、創業者の掘り起こしにつきましても、創業支援機関の方との意見交換等も行いながら、掘り起こしにも努めてまいります。</p> |
| 委員 | <p>創業することは、簡単なことではないと思いますので、成功事例を知ることでマインドの醸成し、創業者の掘り起こしや、その予備群の育成につなげることができれば年間200件という目標をクリアできるのではないかなと思います。よろしくをお願いします。</p> |
| 委員 | <p>私ども大分県産業創造機構おおいたのスタートアップセンターも様々な取組を行っています。創業を目指す方や創業後の成長を目指す方の知識の習得や、参加者間の中で、プランを形にしたり、また人脈づくりの場としていただきたいと思います。また、県の補正予算もつきましたので、支援内容を拡充しながら、大分市と一緒に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>私から一点ですけれども、このピンクの取組の中で先端技術、ドローン、航空機、ロボット、水素等あるかと思います。</p> <p>私は県から出向しておりますので、県の施策とこちらを合わせていただいているものと理解しておりますが、大分市の予算が限られる中で、様々な施策に取り組まれており感謝申し上げます。特にこの中で、大分市はコンビナートを抱えていますので、水素の利活用につきましては、大変取組が進まれているのかなと考えております。</p> <p>産業創造機構でも水素のハイドロネクスト、高専の松本先生と一緒に、精製からのデバイスで活用するツールの研究会を今年度予算で措置しております。</p> <p>そのような活動に、大分市も入っていただきながら、産業創造機構も一緒に取り組んでいきたいと思っていますので、今後とも連携をお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>ぜひよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>ありがとうございます。いかがでしょう？創業支援、成長産業、両者においていろいろなご意見いただいておりますが、そのほかいかがでしょう？</p> |
| 委員 | <p>達成目標の 200 件に対して、達成してはいないけれども、かなりの件数が創業されているんだなということがこれでよく分かります、問題は、積みあがったところがその後どうなっているのかという成果の把握をどうされるのかといったところです。</p> <p>例えば製造業の場合、計画の資料編 97 ページに事業所数、あるいは従業者数の推移のグラフが平成 26 年のところまでのものがございます。</p> <p>新規によって、例えば事業所数が増えたり、就労人口が増えたり、あるいは出荷額が増えたりとか、どの様な形で成果を捉えていくのかという指標が必要になってくるのではないかなと思います。その点はいかがでしょう？</p> |
| 事務局 | <p>創業件数について目標値を掲げこれを達成できるよう、各支援機関の皆様方と連携して取り組んでいるところでございますが、本市における製造業他様々な業種がありますが、業種ごとに事業所数や従業者数の数字そのものを現時点では把握できておりません。創業後のフォローにつきましては、支援機関の皆様方と連携してそれぞれの機関で支援した皆様のフォローが必要であると考えております。</p> <p>少しこの創業件数とは話が外れますが、本市では開業、創業して事業所を構える際の支援として補助金の制度を作っております。事業所の賃料や、事業所の改修費用、販売促進に係る各種費用等を対象としているものであり、この補助金の対象となった企業の皆様方には、その後 3 年間後追いをし、それぞれ事業の実績、進捗状況等を把握しているところです。</p> <p>本件につきましては、皆様廃業することなく、その後順調に業績を伸ばしているところが多いという状況です。こうした実態把握と併せ各事業における成果等を把握してまいりたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。創業し、どのように成長していったのかということは、大変大事なポイントであると思いますので、毎年 200 件近く創業しているわけですから、200 件が 400 件、600 件、800 件と蓄積していきますので、例えば単純に売り上げだけでもよいと思いますが、その累計を把握していき、どのように推移し、また、従業員数がどのように増減したか、そして全体の増加分に対する寄与度について指標を作ると成果をつかみやすいのではないかと思います。よろしくお願いします。</p> |
| 委員 | <p>創業してからの話がありましたが、創業する前のことについて伺います。</p> <p>大分県、あるいは大分市というのは、創業に対する公的な支援が非常に多岐にわたり、段階的に支援されているということで、国内においても支援体制が充実していると言われておりますので、創業しようというところまでこぎつければ、様々な支援によって対応して下さると思いますが、そこに至るまでの、例えば、若い人たちを中心とした、(もちろんシニア層、一回退職されてもう一回されるというような方も含めて)、意識付けについてお伺いしたいと思います。</p> <p>何か大分市としてそういう教育の部分で、組織に入ることもとてもいいことで、大事な事ですが、そうではなくて自ら何か事業を起こしていくということも素晴らしいことだということで、</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>創業マインドの醸成に関して取り組まれているような事例などありましたら教えてください。私どもの大学の教育機関などでも創業マインドの醸成を進めていく役割を担うものであり、私の所属する社会イノベーション学科でも取組を進めています。お願いいたします。</p> <p>創業に関する意識付けでございますが、ホルトホールの2階にある「大分市産業活性化プラザ」で先ほども触れましたが、セミナーを開催しております。そのセミナーの中に創業（起業）に関するセミナーがございます。</p> <p>また、そのセミナーにつきましては高校生を対象にしたものを3年ほど前から開催しております。高校生が参加しやすい夏休み等を利用して、高校生の段階から創業（起業）についての知見、興味を持ってもらうようなセミナーの内容で開催しています。</p> <p>創業の内容で全国的に評価をされ、表彰されたような事例も出ており、セミナーの効果が出ているものと思っています。</p> <p>また、女性を対象にしました、女性の起業家を育てるということに、これは大分県さんの方もかなり力を入れてらっしゃいますが、本市におきましてもセミナーを開催しているところでございます。今後はまた、シニアの方にも幅を広げてそれぞれターゲットを絞った中で創業に関するセミナーを開催して、意識付けを図って参りたいと考えているところでございます。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございました。なお手前味噌ですが、本日も小学生を対象とした、大学と金融機関主催の起業支援の研修が開催されています。非常に若い世代、高校生よりもっと下の世代、さらに親御さんなどに対する意識付けなどにもつなげていただければと思っております。</p> |
| 委員 | <p>実は96ページに、大分市の創業支援計画の図が載っております。この図のように我々大分市さんと連携させていただき、特に創業の面では、創業セミナーを実施しております。具体的には、先ほどの大分市産業活性化プラザで広く募集して、そこで創業セミナーを開催し、大分市全体の創業のお手伝いをしようという取組です。大分商工会議所は、ご案内の通り、かなり昔から経営支援の組織として、創業に関するサポートをずっと扱っております。時代の変化によって様々な難しい側面もありますが、時代の変化に即したマーケティングも考えたうえでの経営計画、創業計画を策定し、創業していただくということでやっておりますが、今回こういう形で大分市さんとタッグを組んで、特にセミナーについては大分市産業活性化プラザの方々と連携してやらせていただいておりますので、我々も気を引き締めてやっていきたいと思っています。</p> <p>資料の4の2ページ目ですが、大学や研究開発機関等と連携した調査・研究の中で、参入障壁が高いという表現をされている、課題や問題点のところでございます。確かに技術的な事、メディカルバレーだとか、ロボット、ドローンといったなかなか行政単位で積極的に関わるのは難しいのかなということはあるんですが、例えば、大学や研究開発機関等の連携についての参入障壁の、障壁というのは大分市としてはどういった点が障壁になっていると思われるのか、教えてください。</p> |
| 事務局 | <p>医療や航空機の業界では、技術水準や安全水準において、求められるものが非常に高いという意味で記載しています。今おっしゃった東九州メディカルバレー構想ですとか、大分県医療口</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ボット機器産業協議会や、大分県航空機関連産業参入研究会などがございますが、わたしどももそういった団体の皆さん、特にメディカルバレーに関しては、2年前から私どももメンバーに入れていただいて勉強させていただいているところです。その中で事務局の方や企業の方との意見交換ですとか、大変有意義なセミナーを聴講させていただいております。特に素晴らしいと感じていますのが大分大学医学部の方と一緒にニーズ、シーズを探索して、そこから新たなアイデアを掘り起こして地場の中小企業が、新商品開発されているという事例などがあり、大分県の取組が羨ましいと思っている所ですけれども、一方で、私たちも同じようなことはなかなかできないですし、そこで市として担うことができる役割として、どのようなタイミングで、どのような内容の支援ができるのかという点について、日頃から考えておりますが、なかなか着手に向かえていないというところでございます。</p> |
| 委員 | <p>各産業の性質上、難しい側面でもありますが、大分県の取組に、積極的に関わっているということであれば、一定の評価ができると感じます。ただ、達成度からする表現しづらいとも思いますが、「C」でなくてもいいのかなと感じました。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。 補足ですが、医療のところについては、なかなか独自で着手は難しいんですが、既存の事業（中小企業の皆さんの販路拡大を応援する事業）で、東京や大阪等の大都市圏で開催される見本市に大分市ブースを設置し、市内中小企業に出展していただくというのがあり、今年度初めて医療分野に挑戦したいと考え、来年2月に大阪で開催されます「医療と介護の総合展」に出展することとしております。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。今のお話に関連して、達成度の評価についてですが、先ほどの資料3のところでは、創業の件数が、計画の目標値として設定されている事は認識していますが、資料4の中での各取組項目に対して、それぞれ目標値があるわけではないという認識でよろしいですか？</p> |
| 事務局 | <p>その通りです。資料4の個別の取組に対する目標値というものは設定しておりません。</p> |
| 委員 | <p>ということはある種感覚の部分というか、特に「C」と評価されているもののなかには、少し謙遜されている部分もあったりするのかなと感じますが、その部分で、今回の委員会の中で変更するということは特にはないということよろしいですか？</p> |
| 事務局 | <p>私どもの想定では、変更等は考えておりませんが、皆様からの意見をいただいた上で、内容によっては評価の変更についても検討させていただきたいと思っております。 ありがとうございます。</p> |
| 委員 | <p>承知しました。個別の取組に関する達成度はこの前提条件の下、皆様からのご意見をいただきながら、いろいろ工夫改善をされていくということで了承いたしました。</p> |

| | |
|-------------------|--|
| 委員 | <p>それではいかがでしょう。創業の部分はかなり議論もあったかと思うんですが、成長産業のところで、それぞれのお立場からご意見等はございませんでしょうか？</p> <p>創業のところの成果の部分、PR の部分、それから事前の意識付けのところ、そして成長産業のところでは、新たな連携の中での大分市独自の展開を含めてこれからご検討いただきたいというご意見が出たかと思えます。これからもさらに、ご検討いただければと思います。</p> |
| <p>2. 産業集積の推進</p> | |
| 委員 | <p>立地の関係でございますが、資料 4 の 13 ページで、大分市東京事務所の機能強化という記載があります。大分市東京事務所の体制などについて教えていただけますか？</p> |
| 事務局 | <p>東京事務所は、所長と職員、現地での採用職員という体制ですが、昨年度から所長の他もう 1 名の正規職員の業務の中に企業立地に関する業務を兼務ということで配置しております。</p> <p>今年はまだ 1 名、昨年総務省に出向しておりました職員が、東京事務所に配置をされており、その者も企業立地に関する業務を担当しています。</p> <p>この結果、大分県東京事務所の企業誘致課の方々と共に企業の訪問の際に同行させていただき、知見を積むことで、市単独でも企業訪問ができる体制になりつつあります。</p> |
| 委員 | <p>公設地方卸売市場の関係でお聞きしますが、2017 年度からの市場の在り方についての調査研究が始まっていて、2018 年度についても方針決定に時間を要するというのが課題として挙げられていますけれども、この点の考え方等、今示せるものがあれば教えていただきたいです。</p> |
| 事務局 | <p>市場の施設自体の難しさというものが、取扱量を維持していただくだけでも大変だという実情があり、今後の市場の位置付けや、目標、将来像などをどうしていくかということを含め、全体を見直す機会として昨年度から動き出しているところです。</p> |
| 委員 | <p>また詳しいことがわかればお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>改めてご報告させていただきます。</p> |
| 委員 | <p>大分港の大在コンテナターミナルこれは資料 3 の進捗状況を見ますと、2018 年度の実績はかなり良い結果となっておりますが、新航路の開設の影響でしょうか、または、営業努力の成果によるものでしょうか？</p> |
| 事務局 | <p>この事業は、港湾を管理する、大分県の土木建築部港湾課の方と連携をして取り組んでいるところでございますが、実績が伸びた理由につきましての分析は十分にできておりません。委員がおっしゃるように新規航路開設によるものか、もしくは営業努力によるものか、営業努力の方は年に 100 社程度、航路に関係する船会社や、実際に大分港を利用させていただく荷主の企業などを、県の港湾課事務局の方が訪問し、営業されています。実際にそれで、2000～3000 程度 T E U が伸びており、新規航路の開設の影響もあるかもしれませんが、営業によるところも多分にあるのではないかと考えています。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>なお、新規航路ですが、R0-R0 船のほうも新規航路が開設されており、R0-R0 船の方は航路の開設によって伸びているものと認識しております。</p> |
| 委員 | <p>現在、港湾関係では、博多や北九州との競争が厳しくなっていると思いますので、既存の考え方の営業だけではなく、少し考え方を変えた新しい営業の方法を国際貿易センターや県の方とも連携しながら検討していかれるといいと考えます。</p> |
| 委員 | <p>企業の誘致件数の方について、これだけ件数が目標を超えていることに対してどういった分析をされていますか。一番の要因が分かれば教えてください。これまで、積極的な企業誘致をされ、一方で助成対象の雇用人数を引き下げるなどいろいろな工夫をされていると思いますので、その点について分析されていることがあればお聞きしたいです。</p> |
| 事務局 | <p>企業誘致の実績の伸びにつきましては、基本的には金融緩和等の企業様の設備投資が旺盛になったということがベースにはあると思います。企業誘致は都市間競争ですので、企業の皆様に立地していただくにあたって、雇用形態に関する要件について、2018 年度から非正規の方についても、助成金の対象とするなど、支援制度を充実させてまいりました。こうした支援制度などを企業にアピールしながら、積極的な働きかけをしているところです。</p> <p>大分県と連携する中で、これまでの企業へのアプローチが実り、本市での立地に至ったものが多くあると考えています。</p> <p>今後も引き続き大分県と連携して、企業誘致の取組を進めてまいりたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>企業誘致は、経済情勢等に大きく左右されますし、色々な要素が絡みますので難しいものだと思います。他の指標は 15 年度の実績値を上回る目標値を設定している中で、企業誘致の目標値は 15 年度の実績 8 件に対して単年度の目標値が 7 件ということで、少しかけ数値が低くなっていますが、そういった難しさがあるのだらうと思っています。やはりどの項目についても、市単独というのは難しいところもあるかと思っていますので、企業立地であるとか、工業振興という面で、大分県と一層の連携を進めていただき、成果を上げていただければと思います。よろしくをお願いします。</p> |
| 委員 | <p>大分流通業務団地は、新聞記事等によるとかなり埋まってきているという感がありますが、現状空き区画はどれくらいありますか？</p> |
| 事務局 | <p>流通業務団地は、大分県の企業立地推進課が所管しており、商談中を除く空き区画は 5 区画と伺っております。</p> |
| 委員 | <p>その 5 区画については、業種や企業の実態によって必要な面積が違うでしょうから、ピンポイントの営業が必要になるものと思います。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。残りの 5 区画はいずれも団地の周辺部の比較的狭い区画しか残っていないということですので、委員がおっしゃるように、企業によってニーズが違いますので、企</p> |

| | |
|-----|---|
| | 業の規模や、事業内容も鑑みて、ターゲットを絞った誘致活動に取り組んでいきたいと思いません。 |
| 委員 | 業界、企業を取り巻く環境ですとか、あるいは競合他社の状況等を含めて、刻々と環境が変わる中での戦略の在り方を再度ご検討いただければということと、手堅い形で進める既存の手法を合わせ、産業集積に関しては大分市の力があるところだと思いますので、強みをさらに強化できるような戦略を多角的に考えて推進していただきたいと思えます。 資料4においていくつか初めて出た「D」判定がありますが、これに関する考え方、位置付けについて教えていただけますか？ |
| 事務局 | 例えば資料4の14ページのところで、市場のところで少しご説明しましたが、「施設整備の推進」という項目では、施設整備も含めて市場の今後の在り方等について、一旦、昨年度から考え直しに取り掛かっていますので、そういう意味で過渡期であり、単純には評価が難しいというところがあります。また、別のところで、計画策定当初では実施しようとしていたことでも、希望を込めたビジョンでありまして、調査研究の結果や、社会経済情勢の都合で一旦実施を見合わせる判断をしたものも一部ございます。そのような取組みについては、「D」という取り扱いをしています。 |
| 委員 | 先ほど伊藤委員からありました宿題とあわせて、ご対応いただければと思えますので、よろしく願い申し上げます。 |

3. 企業の競争力の強化

| | |
|-----|---|
| 委員 | いつも商店街の活性化にご尽力いただきまして本当にありがとうございます。 小売業の年間商品販売額というのを見て、私たち商店街としましては「こんなに売れているのかな？」と実感が無いのが現状です。 今年、OPAも開店し、確かに人通りは本当に多くなっていますが、商店街が皆さんご存知のようにほとんどが飲食店の街というふうになっております。商店街組合としましては、できるだけ多種多様なお店がある方が魅力ある街になると思えますが、現状は、インターネットで買い物ができる時代ですので、難しいと考えますし、人が集まるだけでもありがたいのかなという思いもあります。各商店街の店舗の努力が必要であることは当前ですが、やはり市の協力、援助がなければ大変厳しいのが現状ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 なお、歩行者通行量調査につきましては日中、おそらく日中より夜の歩行者数の方が多いと思えますので、できれば夜の統計も取っていただければ、街のイメージも変わってくると思えますのでよろしくお願いいたします。 |
| 事務局 | 貴重なご意見ありがとうございます。 まず歩行者通行量の調査につきましては、ご存知のように年間計測させていただいていますが、過去の実績と比較する必要がありますので現状のポイント数と時間帯は今後も継続していきたいと考えています。 夜間については予算との兼ね合いもありますので、計測するかも含めて、全体的に考えさせて |

| | |
|-----|--|
| | <p>いただきたいと思います。また、小売業の売上げの話ですが、先ほど事務局から説明がありましたように、少し前の数字となっています。中心市街地だけで申しますと、三期の中心市街地活性化基本計画を策定する際にご案内申し上げました通り、平成 27 年をピークに、下降しておりますので、今後とも一緒に協力をさせていただきながら、様々な施策に取り組むなかで活性化に繋げてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。商店街の在り方、魅力ある商店街づくりについては、大分市にとって大変大事なところだと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> |
| 委員 | <p>企業の競争力の強化というところで、我々商工会議所としてもぜひ大分市と一緒にしっかりやっていかなければならないと認識しています。特に、施策の中で小規模事業者の競争力強化への補助金、製造業向けの設備補助金、こうした制度は国の制度に見られる申請期間の短さや、書類作成の煩雑さに比べ負担が小さく、これから伸びていこうとするも、経営資源が少ない事業者にとってまた、それらを支援する立場の我々としても非常に心強く思っているところです。我々は現場部隊ですので、引き続きぜひ連携を密にして、我々の意見も取り込んでいただきながら施策に生かしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、我々商工会議所は全国的に日本政策金融公庫の無担保無保証の小規模事業者向けの融資を扱っておりますが、全国的になかなか伸びておりません。融資の需要が少し減ってきていると感じています。</p> <p>また、もう一つの我々の課題として人手不足もあり、IoT、AI をうまく使って生産性を向上していこうと取り組んでいますが、この点で、ひとつの起爆剤として補助金の自己負担分に対して融資を利用される場合に、IoT、AI を活用した設備投資であれば、利子補充によるサポートをするなども考えておまして、この点につきましては、ぜひ大分市から、応援をいただきたいと考えています。</p> <p>融資に関しましては、金融機関と情報交換しながら推進していますが、なかなか伸びていないという状況の中で、大分市の融資は達成度「B」ということで、融資制度の充実や利用促進について、現状や考えを教えてくださいたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>委員の方からお話があったように、大分市の制度融資に関する達成状況としましては「B」ということで、融資件数、実行額、給付額ともに、おおむね相応に活用されているという状況です。金融機関等のご意見として、中小企業者の方に対しては、信用保証料補給をしている関係で紹介しやすいと伺っておりますので、今後も引き続き、融資枠を維持しつつ、実施してまいりたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>大分市内の各金融機関の方々と一緒に取り組まれているということですが、現状では中小企業者向けの融資は活発な動きがあるのか、横ばいなのか、あるいは需要が減っているのかについて、ここ 3 年から 5 年の状況や、これから先を含めて、感覚的なものでも結構ですので、教えてくださいいただけますか？</p> |
| 事務局 | <p>平成 29 年度の実績に比べて融資の実行額や件数が伸びてきているという状況ですので、融資に</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>委員</p> | <p>関する需要は伸びてきているというふうに感じております。</p> <p>資料4の19ページ中ほどに見本市出展事業補助金というのがあり、大変好評だと伺っています。私もこういった出口（販路）に関する支援制度を運営していますが、経営革新計画の承認や、計画作成のお手伝いとあわせ、最終的にアウトプットの部分を試さないと、なかなか小規模事業者にとっては、市場の動き等を把握できないと考えますので、こういった出口支援というのが大変重要だと思っております。ぜひ引き続き行っていただきたいと思います。</p> <p>この事業につきましては、予算を上回る申請があったということで、10月で申請を締め切ったという昨年度の実績を上げられている中で、質問が2点ございます。審査項目を見直す必要があるというのは、どの様な点から見直しをされるのかと、予算については、2019年度は資料を見ると減っているように見えますが、どのような経緯でしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>審査項目の見直しについては、申請者から提出された資料に基づいて審査する場面があり、その中の審査項目がより専門的な内容、単にこれまでの出展経験ですとか、商品の概要、出展したいと思う見本市がどういったものか、というところだけではなく、もう少し深掘した審査をして、行っていくべきではないかというところがございます。</p> <p>予算はですね、昨年度につきましては予算上限に達しまして、補正予算を組んで対応したところでございます。基本的には同額、同件数を指して、予算的には確保させていただいております。ただ、申請内容によっては、例えば50万円が上限ですが、すべての申請者が満額まで申請するものでもありませんので、件数は増えたとしても、近隣の福岡での見本市ですと費用がそこまでかからないケースもよくあります。申請額と件数についてはなかなか読めない部分がありますので、同程度の予算を確保しています。</p> |
| <p>委員</p> | <p>それともう一点要望です。研修にかかる費用の補助は良い事業だと考えます。様々な団体でのセミナーなどの参加に、積極的にご活用いただいているようですし、私も大分市内の事業者には、積極的にご案内しています。やはり人材の育成というのは事業者にとって最も大切な部分ですのでこうしたサポートを、引き続き充実していただきたいと思います。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>我々も可能な限り使い勝手が良く、痒いところに少しでも手が届くような支援に心がけており、利用される事業者からは好評をいただいているところですが、これまで以上に多くの事業者の皆様へ伝わるよう、これからも制度の周知等にご協力をお願いいたします。</p> |
| <p>委員</p> | <p>資料2の(1)の③の販路拡大の支援については、見本市の出展というのは本当に大分で出来たプロダクトをですね、外でさらに販路拡大するという場所づくりとしては、本当に最高の施策だと思います。私も関わらせていただいておりますが、実際、こんな商品を大分市の企業が作っていたんだという企業さんがたくさんあることに気づかされますし、あるいは既存のメインの事業とは別に新たに事業を始められる企業もあって、そうした企業が販路拡大する場所づくりとして本当に良い機会だと思います。</p> <p>ただ一方で、この事業を利用される中小企業がかなり偏ってきている状況もみられます。この</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>制度の情報にリーチした会社は、こんな良い補助制度があるのかと気づかれますがまだ情報に触れることができていないその他の多くの企業があると思いますので、そこを商工会議所さんとか、関係機関の方と、挑戦、販路拡大したいという強い意志をお持ちの中小企業の皆さんに対して、できるだけ広範囲にこうした制度の周知が行き渡るようお願いします。</p> <p>資料 4 の 19 ページに、大都市圏でのアンテナショップの開設とありますが、達成度「D」ということで、かつ今後の方針のところを見ると、検討余地があるということで、おそらく実施することは難しいのだらうと思いますが、一方でアンテナショップという場所を自前設置するというよりは、例えば「ショップインショップ」的な、例えば地方のプロダクツを大手企業のショップの一角で販売するなどされています。そうした「ショップインショップ」を利用して、あえて場所を持たないアンテナショップという手法も少し検討されてはと思います。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。</p> <p>1 点目でございますが、販路拡大その他の制度の周知については大分商工会議所、大分県産業創造機構、大分市工業連合会の皆様方をはじめとする関係団体、企業等にご案内させていただいており、いつも積極的なご協力をいただいております。皆様の周知を通じてのお申込みや直接のご紹介もいただき、おかげをもちまして効果的な事業展開につなげることができております。ありがとうございます。</p> <p>一方で情報を送られても見ない方や、団体に加入していない方も多くいますので、いろんなルートを通じて、ご案内していますが、まだまだ足りていませんので、これまで以上により多くの皆様に情報が届くよう引き続き努力いたします。</p> <p>アンテナショップにつきましては本計画の策定前に検討しておりましたが、費用面はもとより、様々なリスクが考えられますし、東京の有楽町でもほとんどの自治体が、赤字であり運営が大変難しいと伺っております。今後も様々な情報を収集する中で、アンテナショップについて検討してまいりたいと考えています。</p> <p>「ショップインショップ」につきましては、民間企業の方から、様々な情報や提案をいただきますので、例えば東京の多くの人が集まる場所や、ターゲット層とする人が注目する店舗等で上手く大分市の商品、企業の技術などを紹介できるチャンスがあると認識していますので、その可能性について他都市や民間企業等の情報を収集しながら検討してまいりたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>商工業振興計画の策定や推進に関する会議には 2008 年度に策定した第 1 次計画のときから関わらせていただきました。常に感じますのは、時代は刻々と変わりますのでその時その時で施策というものは柔軟に対応していくべきだと思ひますし、そうあってほしいと心から思ひます。</p> <p>ちょうど第 1 次計画ができたときはリーマンショックと同時期でしたので、中身はすでにできていて急きょ変えるのは難しく硬直的であるということを感じたのを覚えております。今時点ですと 2016 年、平成 28 年にこの第 2 次計画がスタートしたと思ひます。現在、工業界も、商業界も、地域全体を含めて喫緊の課題として、人手不足、事業継承、働き方改革の対応をどうしていくかということは、平成 28 年当時はあまり考えていませんでしたが、現実のものとして直面しています。これら足元の問題を克服しないと景気の根本を揺るがす要因になっています。こうした問題に対応していくための施策を進めるためにも、ぜひ柔軟に対応していただき</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>たいというお願いです。</p> <p>商店街における目下のテーマにキャッシュレス化の話があると思いますが、これをどこまで進めることができるかによって、効率が大きく変わってくると思います。人手が足りない中でもやっていく必要がありますので、様々な形でサポートしていただくとともに、官民が一緒になって情報交換をしながらぜひ柔軟に対応していただきたいと思います。また、私の所属する大分市工業連合会の取組として「大分市工業展」という催しを例年開催しておりますが、今回から会場や取組内容を変えようとしています。こうした取組を通じて、市内外の皆さんに我々大分市の工業界のことを知っていただきたいですし、特に若い人が「大分にこんな企業があったんだ」と知っていただき「大分で働こう」、あるいは「大分に帰ろう」と、考えていただけるようなアピールの方法を検討していく必要性を感じています。現在の IT の時代には、ぜひ最先端の技術とアイデアを使ったアピールや（先程のショッピングインショップの話もそうですけど）、IoTなどを活用しビジュアル的にもインパクトがあるようなものでアピールするなど、柔軟な発想で計画をリメイク、変化させていっていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>貴重なご意見ありがとうございます。H28年12月に策定しました、現行の第2次計画の取組内容や目標値に対して5年間の進捗管理をしていく必要がありますので、計画の改定は考えておりませんが、今この場でも貴重なご意見いただいておりますし、それぞれの時代に依って行政も考えていかなければならないと考えますので、この場にいる職員がそういったご意見を受けて、翌年度の予算や取組内容に反映するという事は、当然考えて参りますし、翌年度以降のこういった委員会の場においてその後の動きについてご報告させていただきます。また、委員の皆様からの貴重なご意見につきましてはご意見を次の第3次計画に可能な限り反映させてまいりたいと考えております。大変貴重なご意見ありがとうございます。</p> |
| 委員 | <p>雇用に関する部分でご提案です。昨今は様々な場面で、Uターン、Iターン、Jターン促進の取組が行われていますが、UターンよりもIターンとJターンの方に情報発信を強化してはいかがでしょうか。当社でも採用は非常に苦労しており、専門領域の知識、経験を持っている方を求めています。なかなか県内出身の方の応募が実際にはありません。実際に選考しますと、九州他県出身で30～35歳くらいの方がそろそろ親のことも気になるので、九州に戻りたいという方が応募してこられます。九州圏内で大分市を選んでもらおうと考えたときに、県内出身の方は大分のことはよく知っておられると思いますのでUターン以外のIターン、Jターンの方に対して大分の魅力の発信を強化してはいかがでしょうか。ご検討いただければと思います。</p> |
| 事務局 | <p>大分魅力発信局で直接、移住者を担当しております、上原と申します。</p> <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現在、大分魅力発信局に移住の相談窓口がございますが、ちょうど本日7月の末日時点で、過去3年間の電話やEメール等による相談実績を比較しますと、2年前が4カ月で11件、去年が12件、今年度は52件ということで、昨年からプロモーションに力を入れていることもあり、相談件数は大幅に増えております。人材確保という点から、ご案内と、現状の課題をお伝えしますと、大分県産業人財センターという、UIJターン者専門のマッチングの機関がございます、Iターン、Jターンを獲得したいという企業さんにご登録をいただくと、ハローワークとは違っ</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| <p>委員</p> | <p>て、UIJターナー者にその企業を紹介して、企業に面接をしたいということであれば、その交通費と宿泊費の半分を負担するという補助を行っております。私も、大分県内のUIJターナー希望者には、この産業人財センターへの登録を促進していますので、ぜひ、そういう企業の方にも、産業人財センターへの登録をお願いいただくと大変ありがたいです。</p> <p>あともう一点、私も多くの方の相談にのっていますが、Iターナー、Jターナーの方に関しましては、即戦力になるような20代、30代、40代の方も最近多くなっているのは事実であり、このマッチングを上手く行いたいと考えています。その一方で相談件数が増えるにしたがって、「大分市に移住するメリットを言ってみろ」と言われたり他の場所でトラブルを起こした方などがこちらに移住を希望されるといったかなり対応が難しい方も増えてきていますので件数も増やしていきたいですが、質をどのようにして確保していくかということも、私が一年間やってきて実際に感じているところです。</p> <p>ですので、質を確保しながら、網も広げながらということで取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともご意見等ありましたらぜひいただきたいと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>時代とともに変わる環境に応じた施策の見直し等をお願いしますとともに、せっかく準備されている補助金、融資等の支援制度の周知を確実なものにし、適切に活用してもらえよう工夫に努めていただきたいというご意見がありました。</p> <p>また、優れた技術や製品等を有する市内企業を紹介しています「大分のものづくり企業ガイドブック」を活用しての、魅力ある企業の紹介などについて、ぜひ大々的にやっていただけたらと思っておりますし、そこでまた様々な企業に刺激を与えていただければと思っております。</p> <p>それから、商店街の話もありました。非常に環境変化の激しい昨今において、企業、店舗の努力が必要だと思っておりますが、大分市の施策としての支援を引き続きお願いいたします。</p> |
| <p>4. 就労支援と勤労者福祉の充実</p> | |
| <p>委員</p> | <p>資料4の29ページの「就労機会の拡大」について、女性の就労支援等に力を入れていくということですが、実際、幼保無償化の関係もあって、女性の社会進出というのは特に声が大きくなってきているものと思っていますので、ぜひこの分野のセミナーの開催などに力を入れていただきたいと思っております。</p> <p>また、障がい者の就労支援について、私どものところにもライフサポートセンターという支援組織があって、障がいを持つ相談者がいらっしゃいますが「どこに相談して良いか分からない」と言われることがよくありますので、社会福祉協議会の方と連携して取り組んではいますが、より多くの方へ情報発信をしていく必要があると思っておりますので、この取組へのご協力はぜひお願いしたいと思っております。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>まずは女性の就労支援等についてですがこれから先、人口減少社会の中で、女性の活躍というのは国全体として求められていると認識しております。そういった中で、働きたい方が求人されている事業所へ見学に行き、そこで実際の現場を肌で感じてもらうという事業所見学会を実施しておりますが、昨年度からは新たに女性が働きやすい、コールセンター等の職場を、見学先としたり、女性を対象にした就労応援セミナーということで、子育て等のため仕事を離</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>れた方が再度仕事を持つことを後押しするようなセミナー等も行ってまいりました。また、今年度につきましては、大分県と連携する中で、在宅就労に関するセミナーを行っておりますので、こういった部分を引き続き女性に対する就労支援や、情報発信等に力を入れて参りたいと考えております。</p> <p>また、障がい者の就労支援につきましても、現在、市で障がい者の雇用促進事業を行っております。障がい者の方が、こういったところに相談したらよいか分かりづらいという面もございますので、福祉の分野等の情報を収集しながら、障がい者の方に分かりやすい形で、相談先の案内や関連する情報の発信に努めてまいりたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>子どもを持つ親としてお尋ねしますが、やっぱりリターンで大分に帰りたいと思っても、大学卒業等の学歴を持っていたら帰りやすいと思いますが、高校卒業の子ども達が帰ろうと思ったら、どうしても飲食店しかないというイメージを持ってしまう。実際には現在、高校卒業の方も帰ってきたいという相談も市にありますか？</p> |
| 事務局 | <p>就労先としては、高校卒業した方にももちろん大分市内に様々な業種がございますし、有効求人倍率も、大分県内の中ではハローワーク大分管内が一番が高いという状況もあります。さらに、正社員の有効求人倍率につきましては、4月末時点で、大分県全体では1.15倍の正社員に限定した有効求人倍率で、大分市を含むハローワーク大分管内では、1.3倍を超える値になっておりますので、大卒の方、高卒の方に関わらず、大分市で仕事を探しやすい状況であると認識しております。</p> <p>就労の相談については、やはりハローワークや、ハローワークの中にあります、若年者の応援窓口がありますので、そちらの方で多くの相談を受けていると認識しております。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。</p> |
| 委員 | <p>インターンシップについてですが、大卒、新卒の採用ということで、昨年あたりからインターンシップに参加して、そのままその企業に決まるケースが非常に増えてきています。そのようななかで、この計画の中では、まだインターンシップ制度の導入促進のための「啓発」と記載されております。インターンシップの受け入れは指導者を付ける必要がありますし、コスト、時間がかかるということで、企業の負担が大きく、受け入れたいけどなかなか大変であることから、何らかのインターンシップ制度促進のための補助、支援につながる施策について、何かお考えがあれば教えてください。例えば、当社ですと寮がないものですから、県外出身の理工系の学生の方が当社の製品に魅力を感じ、インターンシップに参加してみたいけど、宿泊先もないし、費用の面から断念し、その学生の拠点に近い所に行ってしまうという話も聞きます。</p> |
| 事務局 | <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>インターンシップについては今確かに、多くを懸案するところで、実際の中身はですね、大分県の制度で、インターンシップに参加する学生さんに対して必要な交通費や、宿泊費を補助するものがございます。企業の中には、インターンシップに来る学生さんに対して、交通費や宿泊費を負担される場合もございますので、そういった企業については大分県の制度を学生さん</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>に利用していただく事で負担を軽減することができるのではないかと考えます。</p> <p>このようなインターンシップのマッチングを支援する制度があるということを市のホームページ等で学生さんや企業の方に周知を図っておりますので、まずはこういった制度を活用いただきたいと考えております。</p> <p>そのほか、最近ではインターンシップが多く企業で取り入れられ、必須条件のような状況になってきておりますので、大分市内の企業にもどのようにして受け入れていただくべきなのかということや、市内の企業に、学生さんや、新卒の方、また中途の方も含めて、就職のマッチングを図りやすい、環境づくりに向けて、市としてどのような施策を打つことができるのかについて、引き続き様々な企業の方の声を聴きながら検討していきたいと考えております。</p> |
| <p>委員</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>県の学生向けの支援制度をよく理解しておりませんでした。あとは、企業側の負担のこともありますので、引き続き、支援策の検討をお願いします。</p> <p>また、当社ですとインターンシップの募集はいわゆる大手の就職プロバイダーのサイトに情報を登録して募集したり、独自の企業サイトで募集していますので、例えばそういったサイトに大分県にはこのような制度があって、実は参加しやすいということを掲載するなどの連携を、まだされていないようでしたら、ぜひ速やかに対応いただければと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>送り出す側の教育機関（大学）としても、しっかり連携をさせていただきたいと思っていますので、またよろしく願いいたします。</p> |
| <p>委員</p> | <p>これも時代を反映したものだと思いますが、最近聞いた言葉で「ノマドワーカー」という働き方があるそうです。私は聞くまで存じませんでした。特定のオフィスを持たずに働く仕組みで、若い人はそういう働き方に憧れているのか、最近盛んにそういう話を聞きますが、現実的に我々は驚きをもって受け止めています。実際にそういう働き方が広がってきているとすれば、こうした動きに対する試みを、実証的にトライしてみるということもあってよいのではないかと思います。私がそれを聞いたのは、我が社でインターンシップのための面接をした際に、APUの学生さんに対して、将来どのような仕事をしたいのか聞いたら、わたしは「ノマドワーカー」になって日本で仕事したいということでした。テクノロジーの進化とともに、働き方が大きく変わっていく時代なので、ローカルほどそういったところに敏感に対応すれば、都会と比べて住みやすさや環境の良さは抜群に優位にあるわけですから、大分への引力になっていく可能性があると思います。</p> <p>もう一つは、創業支援の話になるかもしれませんが、かなり年配の方が創業する割合が大変高くなっていると聞いております。東京等の大都市圏で多様なスキルを持つ人たちがこちらに帰って、起業する、地元の活力とジョイントとして何かを起こすことにつながる可能性も大いにあると思います。早めに（積極的に）リタイアして、ローカルで起業してみたいという気運が高くなっていると聞きますので、そういったところの取組も進めてはいかかなと思います。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>先ほどの「ノマドワーカー」もそうですが、多様な働き方が広がり、オフィスを持たずに、コワ</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>ーキングスペース等に、端末を持ち込んで働くという方も増えているということも認識しております。これも働き方改革の一つの要素になるものと思いますが、我々としても全てのそういった新しい動向についていくことはできていないですが、我々としてどんなことができるのかということを引き続き調査研究して参りたいと思います。</p> <p>同じく、年配の方が、大分に戻って、自らの持つ技術や経験を活かして創業するということは、大変ありがたいことですし、大分市に帰って来ていただきたいと思っておりますので、そこはUIJターンや、創業、雇用の担当と情報を共有しながら、検討して参りたいと考えております。</p> |
| 委員 | <p>先ほどから女性、障がい者、若者、インターンシップ、そして新たな働き方ということでご意見が出ましたので、そのあたりのところをご検討ください。</p> |
| 委員 | <p>先ほどのお話にもありましたが、テクノロジーの進歩をはじめ、世の中の流動性に対応する柔軟性が求められるということについては、私も全く同感です。その中で、資料4を見ますともものすごい数の取組、事業がありますが、これも柔軟に考えるとすれば、スクラップ&ビルドに努めることも必要だと感じます。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。</p> <p>事業を進めながらそれぞれ適切なタイミングで精査し、縮小すべきものは縮小し、必要なところに予算を投じていくということは常に考えています。</p> <p>なお、資料4につきましては、本計画に記載のある約220もの「具体的な取組例」を掲載しております。事業そのものもそうですが、今後、皆様にもっと見やすい形で資料をご提示できるよう努めて参ります。貴重なご意見をありがとうございます。</p> |
| 委員 | <p>スクラップ&ビルドについてはいかがでしょうか？</p> |
| 事務局 | <p>資料4は、現状、本計画の具体的な取組例に対応する形で書かせていただいております。これは、それまで取り組んできたもの、今後取り組んでいくものについて書いておりますが、当然、「D」判定のものなどは取組を進めていく中で「D」と判断したもので、そのまま進めるべきではないというものは、社会経済情勢を注視しながら情報収集にとどめたり、他の事業と一体のものとして取り扱うなどしていますので、スクラップすることはできていると認識しています。</p> <p>また、スクラップに対しまして、ビルドすることにつきましては、先ほど委員からも柔軟性についてのご意見がありましたように、時代の変化に応じて、新たに取り組むようなものについて、この表にはお示ししてはおりませんが、当然取り組んでおりますので、時代の流れを見極めながら、アンテナを高くして本市の商工業振興を進めて参りたいと考えております。ありがとうございます。</p> |